日刊 動労千葉

83. 12. 28

No. 1529

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一―八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

1983年をふり返って 最も印象に残ることは

11支部の書記長に聞く

『日刊動労千葉』編集委員会は、一九八三年の闘いを最先頭で担いぬいた十一支部の書記長のみなさんに、次の三つの質問をしてみました。

一九八三年を振り返って、次の質問にお答え下さい。

1. 世界の出来事のうち、最も印象に残ることは何ですか。そのことについてどう思いますか。
2. 国内の政治情勢で最も印象に残る出来事は何ですか。そのことについてどう思いますか。
3. 国鉄内の問題で最も印象に残ることは何ですか。そのことについてどう思いますか。

館山支部　書記長　石井正雄

答①

各国いくつかの争いについて

軍事政策には批判をされている点が多いように、世の中に生きている人間で戦争が好きという人は本当に一人もいないはずである。しかし、何故か戦争の臭いが漂っている。いくつかの争いがあったが、結局は力の強い奴の意志がとおりの弱い奴があきらめなければいけない。今度の大韓航空機の事件が起きたことは微妙な世界情勢を背景にしていると思う。戦争の危険性に対しても、もっと真剣な考え方をもつ事が必要ではないでしょうか。

答②

ロッキード事件　田中判決

有罪判決前の世論調査でさえ辞職を求める声が圧倒的に多かったが自分の主張だけが正しくて、それに反するものは裁判所の判断でも無責任と決めつける思いあがりだ。田中は、まったく悪いことをしたという意識がなく、最高責任者だった人には責任の取り方にも最高でなければならない。良心に欠けて議員を辞めなければ本当ではない。金力にむらがっているだけで数や力は決して正義とイコールでないはずであると思う。

答③

国鉄監理委員会の発足について

我々国鉄の赤字を国鉄労働者の責任かのようにマスコミはたたいている。十年間、国鉄労働運動は終ったかのように思われたが、全国的に千葉の組合員の団結でここまできていると思う。今こそ十年間の蓄積を考え、のりきっていかなければならない。我々は、こうした情勢の中だからこそ進むべき道を鮮明にして組織的団結をうちかため、「59・2ダイ改粉砕」「動乗勤制度改悪阻止」などに向けて支部組合員一致団結して頑張りたいと思う。

勝浦支部　書記長　鶴岡芳弘

答①

米のグレナダ侵略、中近東での爆弾テロ事件

巡航ミサイルのヨーロッパ配備さらには軍縮交渉の決裂、ビルマでの爆弾事件など全世界に戦争の火種がくすぶりだしており、たった今世界戦争が勃発しても不思議でない政治状況にある。

米をはじめとする軍事大国のエゴイズムを許さず、今こそ「反戦・反核」の闘いを世界各地へ広めなければならない。

答②

田中角栄に一審での実刑判決がでたが、国会における野党の政治責任の追及はそれなりの決意も示し、国会空転→解散へと情勢は推移した。しかし、これは野党の力だけでなく、世論・自民党各派の思惑などさまざまの要因で解散・総選挙となったものである。本来、国会空転などせずとも角栄の辞職は当然の事であり、「政治は金なり」をふりかざす者が堂々と開き直れる政治的土壌にあることに対し政治意識の向上、真の民主主義確立の必要がある。

答③

八三年も昨年の臨調答申による「国鉄改革」攻撃はますます強まり、「下回り」「動乗勤」「昇給協定」「59・2貨物合理化」等々既得権剥奪・徹底合理化・人減し攻撃と同時に職場支配権の奪還を狙い、我々労働者を直撃する攻撃をしかけてきている。このような情勢の中で労働者の仮面をかぶり、裏切りに裏切りを重ねる動労「本部」の犯罪的行為は徹底糾弾すべきであり、労働組合として解体の対象とすべき悪性しゅようである。

④写真でみる動労千葉の闘い

第5回団結祭は、組合員・家族555名が参加し盛大に開かれた。　11月3日